

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100570		
法人名	有限会社タケダ建設		
事業所名	グループホームほうむ川上		
所在地	佐賀市大和町大字川上760番地1		
自己評価作成日	令和3年7月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	令和3年8月4日	外部評価確定日	令和3年10月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>◎基本理念 「思いやり」の気持ちを持って、住み慣れたご自宅同様な雰囲気の中で、心からゆったりくつろげるサービスを心がけ、安心してご利用いただける場の提供を目指します。</p> <p>◎基本方針 ・利用される気持ちや意思を尊重し、利用者様中心のサービスを提供します。 ・介護の質の向上に努力します。 ・地域の医療・福祉機関との連携を大切にします。 ・全てのスタッフも含め、利用者様が共に支え合う喜びを味わえる場所づくりを目指します。</p> <p>今後も今まで同様に、地域の方々や地元の方々との交流やご支援ご協力頂き、選ばれる施設を目指していきます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は豊かな自然に恵まれた大和町の山あいの住宅街に位置し、山の緑と日の出、日の入り時は素晴らしい景色を眺めることができ、利用者の癒しとなっている。住宅街を散歩する際は、地域住民と触れ合う機会も多く、地域に溶け込み、住み慣れた地域でその人らしい生活ができる事を目指し、職員一丸となって日々の支援に取り組んでいる。認知症であることにとらわれず、人として普通の暮しができ、個別性を重視したアットホームな関わりを目指している。排泄に関しては、利用者の排泄のリズムを確認しながらオムツ外しに取り組む等試みている。職員のチームワークを大切に、何でも言い合える関係性が築けるよう、雰囲気づくりに留意した対応に努めている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	改めて、理念の共有を図っていきます。	理念は、開設時に管理者が作り、事務所内に掲示されたものを職員が各自目を通していている。また、理念については、管理者が理念づくりの研修に行き学ばれた事を、職員と一緒に考え、理念の理解を共有したいと検討をされている。	職員と一緒にグループホームの理念を考える事で、事業所独自の理念の理解と職員への意識づけに繋げ、日々の生活の中に反映されるように期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ渦で、地域の方々との交流は実施できていない状況ですが、昨年末のホーム内での餅つき実施後に、出来立ての餅を提供しました。今後は、コロナ感染状況をみながら、交流していきます。	コロナ禍により、交流の機会は制限されている中でも、事業所内で餅つきをした餅を近所に届けたり、散歩に出かけた際は、近所の方が育てた野菜や果物など頂くことも多く、顔見知りの関係が築けている。地域の方にグループホームの敷地内の畑で利用者と一緒に育てている。地域の人に野菜の作り方を教えてもらう機会もある。また施設へ花を届けてもらうことも多い。野菜作りを通して地域の人との関係性の構築に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所のみでの共有で、活かしていないのが現状です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回の運営推進会議はコロナ感染防止のため、書面にて関係機関や関係者へ配布し、意見を頂いており、サービスへ反映しております。	コロナ禍により、関係者が集まったの運営推進会議は行えていない。職員で研修会をする際に運営推進会議の議題を一緒に話し合い、その結果を書面により関係者へ配布を行っている。時には、地域包括支援センターの職員の参加があり、アドバイスを貰っている。利用者家族へは、ホーム便りと一緒に報告するようにしている。コロナ禍での運営推進会議の開催方法も検討をされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に一回の運営推進会議はコロナ感染防止のため、書面にて地域包括支援センターへ配布し、意見を頂き関係の構築を実施しています。	主に地域包括支援センターの職員と連携をとることが多い。必要時は、中部広域連合や佐賀市の生活福祉課へ出向き相談行うなど、連携を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内の勉強会で資料に基づいて、説明周知徹底行っています。玄関施錠に関しては、なるだけ開錠するようにしておりますが、離設防止のため、施錠しているのが現状です。	外に出られる利用者があり、玄関は通常施錠していることが多い。職員が入浴や調理等利用者に関わる時間は、施錠しているが、レクリエーション等午後の時間には施錠しない時間を作るように努めている。職員への身体拘束をしないケアの具体的な内容の周知は月1回開催している勉強会時に行い、理解しての対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の勉強会で資料に基づいて、説明周知徹底行っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、至っておりません。今後、権利擁護に関する制度の勉強会を実施致します。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明は、スタッフ二人対応で実施し、納得されるよう分かり易く説明行っております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ感染防止で、直接的な意見はあまり聞けていない状況です。電話や手紙にて対応させて頂いております。	コロナ禍により直接話を聞く機会はないが、電話、動画、月に1回は写真を含め日常の利用者の様子を家族へ情報提供が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に月1回の勉強会時に、意見や提案の機会を設けております。その他にも、常時話ができる関係です。	職員の意見や提案などは、1か月に1回開催する勉強会時に時間を設けている。そのほか何か意見や要望などいつでも言い合える信頼関係を築けるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員処遇交付金支給しております。賃金のみならず、その個々の良さを導き出しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回、グループ内の勉強会実施し、各施設での取り組みなどの情報を共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回、同地区の同業者との交流会を実施し、参加しております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを確実に実施し、利用者様とその家族様の意向を尊重し関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを確実に実施し、利用者様とその家族様の意向を尊重し関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時その一瞬を、悔いがないよう対応するよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先になっている場合もあっているのが、現状です。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まずは、信頼関係を築き名前で呼んで頂けるようになればと考えております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染防止で、面会規制している状況ですが、可能な限りテレビ電話で会話などして頂ける取り組みを行っています。	コロナ禍により直接の面会は制限しているが、1か月に1回1日3名程度窓越しでの面会やテレビ電話での対応を行っている。時々、老人会の会長から電話がかかってきたり窓越しでの面会等もあり、関係性を築けていけるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル配置等、環境整備を行っています。孤立や口論にならないよう、橋渡しをし、その日のうちにミーティングを開いて、支援共有を行っています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療的ケアが常時必要で、一名の退去者の方のご家族様へ、退院等の話があれば相談頂けるよう、フォロー実施しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	今まで歩んでこられた人生、生活歴を踏まえた計画実施し、支援提供しております。	本人の得意なことや意向を確認しながらグループホームでの暮らしが、本人の楽しみとなるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今まで歩んでこられた人生、生活歴を踏まえた計画実施し、支援提供しております。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日課やルーティンは極力崩さず、可能な限り自由に過ごして頂いております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	コロナ感染拡大防止で、面会制限している状況で、家族様とは、込み入った話は出来ない状況で、電話で確認している状況です、本人様へは、満足度や意向を聞き取り、また、スタッフへも評価をして頂き、計画作成見直し実施しております。	介護計画書は、主に管理者と介護支援専門員で立案している。コロナ禍で家族への意向確認は電話での聞き取りが中心になっている。介護計画書の見直し時期や変更時は、職員と一緒に評価を行い、必要時は計画書の見直しを行っている。	利用者が、その人らしく暮せるように介護計画書の内容は日ごろのかかわりの中で具体的な内容の介護計画書であるように、アセスメントを含め職員全員で意見交換しながら、その人の計画書の内容を周知しての実践に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録活用し、情報共有し計画作成実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、体調や精神面で異なるので、その時に応じた状態を情報収集し、周知しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	フォーマルサービス優先し、インフォーマル部分へは至っていません。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関はありますが、元来のかかりつけ医への受診を行っています。	基本的には、入所前の主治医での通院を行っている。通院時は看護師やスタッフが同行し、主治医へ情報提供が行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフは、些細な事でも異変等に気付いたら、看護職員へ連絡できる体制を昼夜整備しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、医療機関のMSWとの連絡等の調整体制を構築しております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホーム内で、何処まで看れるかを入所契約時に説明理解頂いております。また、重度化になられた状態時にも改めて、主治医も含めての話し合いできる場を設けています。	今までに施設で一人看取りの対応を行った。看護師2人を中心に対応を行うが、看取りに立ち会うことへの不安を感じている職員も多い。今後事業所が対応できる支援方法をチームで話し合いながら、安心して最期を迎えられるように努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の勉強会は実施していますが、模擬実践までには至っていないので、実施致します。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施しております。ハザードマップを見える所へ掲示し、周知しております。	夜間想定での避難訓練は年2回の実施ができています。災害を想定した訓練は行っておらず、地域包括支援センターの職員からのアドバイスや、地域住民の協力の必要性も理解されていて、今後実施を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを確保し、人生の大先輩へ対しての言葉かけを常々実施しています。	入浴やトイレの促しなど、その人に応じた声掛けに留意しながらさりげなく誘っている。また、利用者の人格に配慮しながら優しい笑顔での声掛けや対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御利用者様のご希望を表出できるよう、関係性を作っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時には業務優先になりがちなので、本人様のペースで過ごして頂けるよう心がけていきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	スタッフ本位になりがちなので、選択される事も今後念頭に入れて支援致します。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と献立を考えながら、一緒に準備や食事、片付けができる支援を実施しています。	献立は利用者と一緒に考え、個々が食べたい物をリクエストした際も柔軟に対応が行われている。食事の下ごしらえや食器洗いなどの後片付けも、利用者の役割として生きがいにつながられるように取り組みに努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様へ応じた食事形態や食事制限、献立、量の提供支援行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア実施や提供を行っていますが、ご自分でされる方の口腔内の状態は把握していないのが現状です。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、脱オムツができるよう支援しています。	排泄時の仕草などの観察や排泄のリズムを把握し、リハビリパンツより布パンツへ移行できた利用者が9名中5名と、できるだけオムツを使わないような対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤にとらわれず、水分補給や運動などで自発的排泄ができるよう、心がけています。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回実施されていますが、曜日や時間を決めているのが実情です。	利用者に入りたい時間を聞いて入浴の日程を決めての入浴を行っている。利用者にとって入浴の日が曜日の理解につながっていて、入浴を通して1週間のリズムとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は交流の場で過ごして頂くのではなく、疲れていれば、自室で横になって頂けるよう支援実施しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	朝、昼、夕、就寝薬があるという事で、その利用者様が何の薬を飲まれ、どういう効果があるのかの理解は全うしていません。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の趣味や嗜好を、可能な限り取り入れて、気分転換を図って頂けるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日や、体調が良い日はなるべく外の空気を吸って頂けるよう声かけし、実行している。	気候や体調を勘案しながら近所を散歩ができる機会を作っている。散歩をすることで地域住民と関わることも多く触れ合う機会となっている。敷地内の広場からは、山の緑や日が昇る、日が沈む景色が眺められ、利用者の癒しとなっている。敷地内の畑で野菜作りも職員と一緒にこなわれていて、野菜の育て方のアドバイスを利用者教わることがあり、生きがいづくりの場になるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は、所持されていますが、あまり使われる機会はありません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている利用者様も入所されています。手紙を書かれている利用者様も入所されています。ただ、施設内から自由に電話出来る体制は、整っていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い環境整備が来ています。	居間兼食堂にはソファが置かれ対面式の台所からは調理の音や匂いを感じる事ができる。また照明や温度調整も利用者に合わせて、居心地良く暮らしの場としての整えに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを要所要所に設置し、居場所づくりを提供しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が慣れ親しんだ小物など、又、テレビやラジオもご希望に応じて設置されています。	利用者が安らぎを感じるように写真を貼る、馴染みの物を置くなど環境に配慮した居室づくりに努めているところもあるが、居室によっては、袋に入ったままの衣類やオムツ類が無造作に床に置かれているところも見られた。	本人や家族と相談しながら家具や整理棚等を置くなど、整理ができた部屋で利用者が居心地良く過ごせるような環境の整えを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	勿論、バリアフリー状態です。安全に過ごして頂ける建物環境となっております。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない